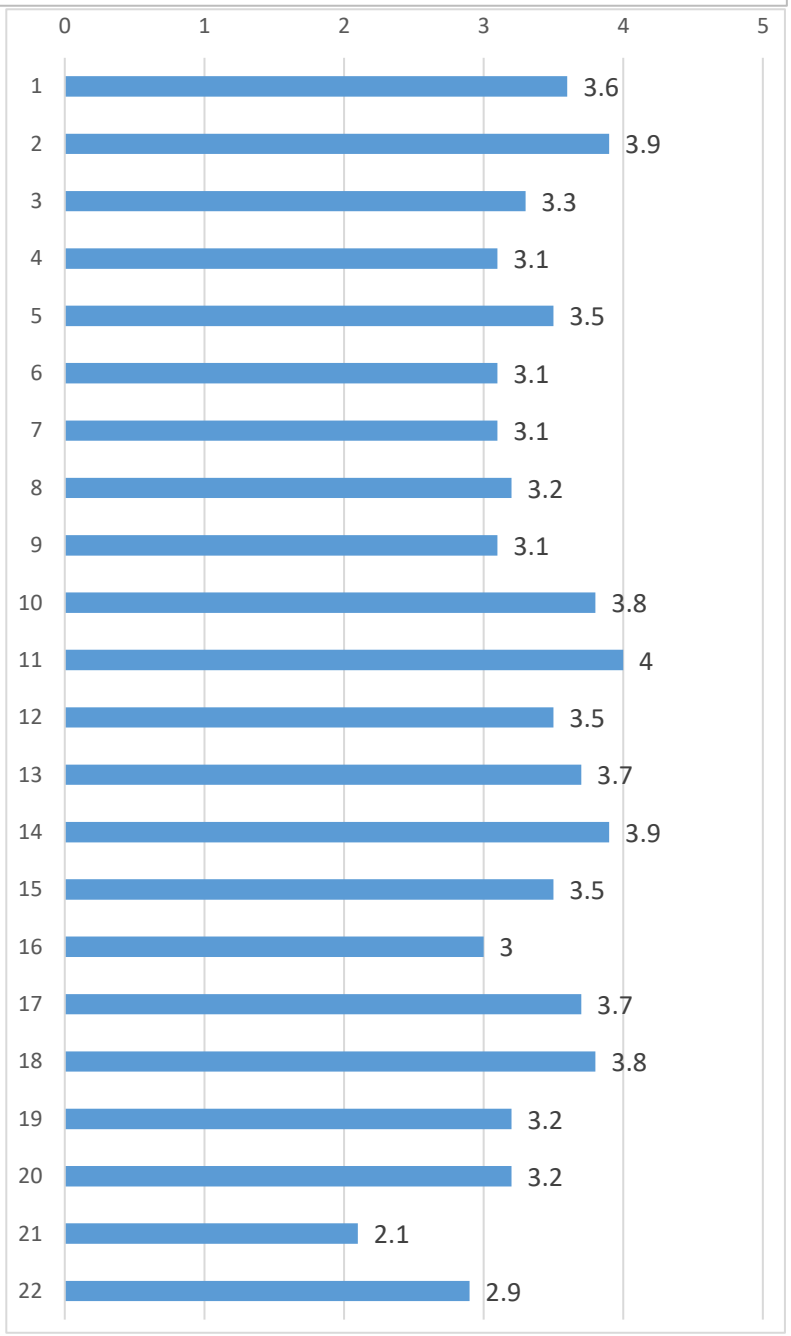
表Ⅱ　令和7年度　武生看護専門学校　自己点検・自己評価の結果

	カテゴリー	下位項目	
Ⅰ	教育理念・目標・目標	教育理念・教育目的	3.6
		教育目標	3.9
Ⅱ	教育課程編成	(1)教育課程編成	3.3
		(2)科目構成	3.1
		(3)教育計画	3.5
		(4)教育課程評価の体系	3.1
		(5)学生の看護実践体験の保障	3.1
Ⅲ	教授・学習・評価課程	(1)授業の展開過程	3.2
		(2)目標達成の評価とフィードバック	3.1
Ⅳ	経営・管理過程	(1)(設置者)管理者の意思・指針	3.8
		(2)組織体制	4
		(3)財政基盤	3.5
		(4)施設設備の整備	3.7
		(5)学生生活の支援	3.9
		(6)情報提供	3.5
		(7)本校の運営計画と将来構想	3
		(8)自己点検・自己評価体制	3.7
Ⅴ	入学	入学	3.8
Ⅵ	卒業・就職・進学	卒業・就職・進学	3.2
Ⅶ	地域社会・国際交	地域社会	3.2
		国際交流	2.1
Ⅷ	教員の教育・研究活動	教員の教育・研究活動の充実	2.9

基準
1当てはまらない　2やや当てはまる　3当てはまる　4よくあてはまる



概要と課題

- 昨年度の評価点と比較するとすべての項目が昨年度同様かまたは上昇しており、全体的には改善傾向にあると言える。
- Ⅵの卒業・就職・進学については、卒業生の現況が把握されていないため、現況調査の実施を含めた卒業生のネットワークを構築するための方策について検討する必要がある。
- Ⅶの地域社会・国際交流については、国際的視野を広げるための授業科目は設定していないが、看護学概論の講義の中に国際協力体験者の講義を取り入れたり、英語の授業を2単位60時間設定し、国際的視野を広げるための講義内容としている。また、地域内における様々な資源を把握し、教育活動にこれまで以上に取り入れていく必要がある。
- Ⅷの教員の教育・研究活動については、例年から低い傾向にある。従来業務の中でスクラップできるものがないか検討し、講義準備や自己研鑽の時間を確保するような工夫が必要である。
- 項目としては上がっていないが、ハラスメントに関する研修会の実施や教員会議等において定期的な検討や意見交換を重ねることでハラスメント防止に関する意識の醸成を図っており、今後も継続的に実施していく必要がある。